



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2018/05/09
SDS整理番号 09013750

製品等のコード : 0901-3750、0901-3730、0901-3769

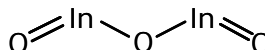
製品等の名称 : 酸化インジウム ()

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
特殊ガラスの製造用、フェライト用、液晶パネル電極原料 など



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分外
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露) : 区分1(肺、骨格、消化管)

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

長期又は反復暴露による肺、骨格、消化管の障害

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
化学名 : 酸化インジウム ()
(別名) 三酸化インジウム、三酸化ニインジウム、
酸化第二インジウム
(英名) Indium () oxide、Indic oxide、
Diindium trioxide (EC名称)、
Indium sesquioxide、
Indium oxide (In2O3) (TSCA名称)
成分及び含有量 : 酸化インジウム ()、99.9%以上

化学式及び構造式 : インジウム(In)含量 = $99.9 \times 114.818 \times 2 / 277.63 = 82.6\%$
 分子量 : In₂O₃、構造式は上図参照(1ページ目)。
 官報公示整理番号 化審法 : 277.63
 安衛法 : (1)-750
 CAS No. : 公表化学物質(化審法番号を準用)
 EC No. : 1312-43-2
 危険有害成分 : 215-193-9
 : 酸化インジウム()
 ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 58
 表示対象物 政令番号 58
 特化則 特定化学物質等 第2類物質、
 管理第2類物質、特別管理物質
 ・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 1-44 (In: 83%)

4. 応急措置

吸入した場合 : 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
 皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水と石鹸で洗う。
 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
 目に入った場合 : 直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して
 いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
 眼刺激が持続する時は、医師の診断、手当てを受ける。
 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、うがいをする。
 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
 意識がない時は、何も与えない。
 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
 予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の措置

消火剤 : この製品は不燃性である。
 周辺火災に応じた消火剤を使用する。
 使ってはならない消火剤 : 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤、砂
 棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染
 を引き起こすおそれがある。)
 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 風上から消火活動をする。
 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防止する。
 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。

接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
保管条件	: 直射日光や高温多湿を避ける。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: データなし
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:	
日本産衛学会（2017年版）	未設定
ACGIH（2017年版）	TLV-TWA 0.1mg/m3（インジウムとして）
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 黄色の粉末
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点	: データなし
沸点	: 850 で分解し蒸発
引火点	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: < 1Pa (25)
蒸気密度（空気 = 1）	: データなし
比重（密度）	: 7.18 g/cm3
溶解度	: 水に溶けない。 熱塩酸、硫酸に溶ける。 アルカリ溶液に溶けない。 エタノール、トルエン、ベンゼンに溶けない。
オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: 850
粘度	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: 本品は不燃性であることから、区分外とした。
自然発火性固体	: 本品は不燃性であることから、区分外とした。
自己発熱性化学品	: 本品は不燃性であることから、区分外とした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水に溶け難く、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 火災等で加熱されると、有害性のあるフュームを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50>10g/kg (SAX (4th, 2001))の記載に基づき、 区分外とした。 経皮 データがないため分類できない。 吸入（蒸気） データがないため分類できない。 吸入（粉じん） データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	: データがないため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 知見がないため分類できない。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: 呼吸器感受性: 情報がないため分類できない。 皮膚感受性: 情報がないため分類できない。

生殖細胞変異原性：データがないため分類できない。
 発がん性：IARC、ACGIH、EPAに記載がないため分類できない。
 生殖毒性：データがないため分類できない。
 特定標的臓器・全身毒性
 （単回ばく露）：データがないため分類できない。
 特定標的臓器・全身毒性
 （反復ばく露）：「インジウムおよびその化合物は骨格、消化管系への影響および特に肺への吸入による有害性によりTLV-TWAが設定されていること」（ACGIH (2001)）、
 「ヒトで2例のインジウムすず酸化物による肺線維症の症例報告があること」（J Occup Health (2003)、Eur Respr J. (2005)）および「インジウムすず酸化物は高いインジウム含量（インジウム74%、すず8%）を有するのでその観察された肺毒性の主な原因はおそらくインジウムによる」（Eur Respr J. (2005)）の記載により、区分1（肺、骨格、消化管）と分類した。
 [注記]
 インジウムは、ACGIHおよび安衛法でもインジウム及びその化合物として採録されているので、酸化インジウムをインジウム類縁体として評価、分類した。
 長期又は反復暴露による肺、骨格、消化管の障害（区分1）
 吸引性呼吸器有害性：データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水性環境急性有害性：データがないので分類できない。
 水に溶けないため、水中、土壌中を拡散しにくいと推測される。
 水性環境慢性有害性：データがないので分類できない。
 オゾン層への有害性：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 （参考）（1）固化隔離法
 そのままセメントで固化し、埋立処分する。
 （2）還元焙焼法
 多量の場合は、還元焙焼法により金属インジウムとして回収する。
 汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）
 陸上規制：特段の規制なし（非危険物）
 海上規制：特段の規制なし（非危険物）
 航空規制：特段の規制なし（非危険物）
 国連番号：非該当
 国連分類：非該当
 品名：非該当
 海洋汚染物質：非該当
 特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。
 必要に応じ移送時にイエロカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法：名称等を通知すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第58号「インジウム化合物」、対象重量%は 0.1）
 名称等を表示すべき危険物及び有害物
 （政令番号 第58号「インジウム化合物」、対象重量%は 0.1）
 （別表第9）
 特定化学物質等障害予防規則
 特定化学物質等 第2類物質、管理第2類物質、
 特別管理物質「インジウム化合物」
 作業主任者の選任、作業環境測定、特殊健康診断、作業環境測定、
 作業環境評価、局所廃棄装置事前届出・設置等の義務あり。
 消防法：非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) :
 ・種別 「第1種指定化学物質」
 ・政令番号 「1-44」
 ・政令名称 「インジウム及びその化合物」

船舶安全法 : 非該当
 航空法 : 非該当
 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質 (中環審第9次答申の21)
 「インジウム及びその化合物」

海洋汚染防止法 : 非該当
 輸出入貿易管理令 : 別表第1の16項 (キャッチオール規制) 第28類 無機化学品
 HSコード (輸出統計品目番号、2018年4月1日版) : 2825.90.900
 「他の金属酸化物 - その他のもの - 3その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。